

ヒナノシヤクジョウについて

1 和名・学名等

ヒナノシヤクジョウ *Burmannia championii* Thwait.

(維管束植物 種子植物 被子植物 単子葉 ヒナノシヤクジョウ科)

岡崎市版レッドリスト 2018 の評価区分 VU (絶滅危惧Ⅱ類)

愛知県版レッドリスト 2015 の評価区分 VU (絶滅危惧Ⅱ類)

環境省版レッドリスト 2018 の評価区分 - (リスト外)

2 形態

菌従属栄養の多年生草本。根茎は球状にふくらみ、多数のひげ根がある。茎は直立し、白色、高さ 3~8cm である。葉は互生し、鱗片状に退化し、披針形、長さ 2~4mm である。花期は 8~10 月、花は茎の先端に 2~10 個が頭状に集まってつき、白色で無柄、外花被片は筒状に合着して 3 稜形となり、長さ 6~10mm、裂片は 3 角形で長さ 1.5mm 程度、内花被片はへら形で小さい。果実は蒴果で倒卵円形、長さ 2.5mm 程度である。

3 分布の概要

- (1) 岡崎市では、北山湿地の主に林下に生育している。湿地保護の会の経年の調査によって分布域がはっきりしてきたため、保護活動がしやすくなった。
- (2) 県内では、岡崎市のほかに豊橋北部、豊田東部、瀬戸尾張旭、名古屋北部
- (3) 国内では、本州 (関東地方以西)、四国、九州、琉球
- (4) 世界では、日本、中国大陸南部、マレーシア、インド、スリランカ

4 生育地の環境／生態的特性

自然度の高い森林に依存する菌従属栄養植物で、林内の湿った場所の、落葉の間に生育する。時には湿地の木道の下など湿り気のある裸地にも見られる。

5 現在の生育状況／減少の要因

- (1) 愛知県では生育地、個体数ともに少ない。
- (2) 里山の森林化は、大部分の植物にとって脅威であるが、本種の場合はむしろ好都合であり、今後発見される機会が増加する可能性もある。その一方で、県内では里山保全活動によって生育地の林床が踏み荒らされ、生育が確認できなくなった場所もある。

6 保全上の留意点

過去に生育が確認された場所やその周辺の森林を保全することが必要である。また、里山保全活動を行う場合は、林床の踏み荒らしを極力回避する必要がある。

7 特記事項

小型で見つけにくい植物なので、ていねいに調査すれば新産地が追加される可能性もある。調査時には、特に注意が必要である。

写真（個体）



池金町（2015. 7. 22）

生育環境



池金町（2018. 6. 21）



池金町（2018. 7. 26）